

Peregrine | Connect-It

2.7.1 - リリースノート

© Copyright 2001 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc. の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc. の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine SystemsおよびConnect-Itは、Peregrine Systems, Inc. の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、ライセンス契約または非開示契約に基づいて提供されます。これらの契約の条項に従う場合に限り、本ソフトウェアを使用またはコピーすることができます。本書に記載されている事項が予告なく変更されることがありますが、Peregrine Systems, Incは予告の義務を負いません。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc. のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン2.7.1に適用されます。

Connect-It

はじめに	5
章 1. 本書の内容	7
章 2. 新規機能	9
マニュアルに関する注意事項	9
アプリケーション	10
バージョン2.7.1	10
バージョン2.70	10
バージョン2.60	13
バージョン2.51	16
バージョン2.50	16
Action Request Systemコネクタに関する補足情報	19
ダイナミックライブラリ	19
日時の変換	19
章 3. 改善された問題点の一覧	21
バージョン2.7.1	21
バージョン2.70	22
履歴 - バージョン2.60	26
バージョン2.51	27

バージョン2.50	28
バージョン2.10	31
章 4. お問い合わせ先	33

はじめに

Connect-It 2.7.1は、旧バージョンの数多くの問題点を訂正し、新機能を搭載したメンテナンスバージョンです。

このリリースノートの内容はConnect-It 2.7.1の新規機能の概要です。本書には新規機能と、2.51、2.60、2.70、2.7.1バージョンで訂正されたバグが記載されています。

本書またはその他のConnect-Itマニュアルに記載されていない最新情報については、Connect-Itのインストール先フォルダに入っている「Readme.txt」ファイルを参照してください。

1 | 本書の内容

章

本書の内容は以下の通りです。

追加された新規機能の概要

改善された問題点の一覧

詳細についてのお問い合わせ先

2 | 新規機能

章

Connect-It 2.7.1には以下の分野で新規機能が追加されています。

マニュアルに関する注意事項



注意： 付属のConnect-Itのオンラインヘルプは、HTMLファイル形式でコンパイルされています。このオンラインヘルプを表示するには、Internet Explorerバージョン4.0（またはそれ以上）がインストールされていなければなりません。Internet Explorerバージョン4.0（またはそれ以上）がインストールされているにもかかわらず、オンラインヘルプを起動できない場合は、重要な「dll」ファイルが壊れているかまたは不在である可能性があります。詳細は、MicrosoftのWebサイトを参照してください。

Connect-It日本語版：ユーザガイドは日本語版で提供されています。他のマニュアルは英語版です。

アプリケーション

以下の分野で問題点が改善されています。

バージョン2.7.1

ServiceCenterコネクタ

サーバとの接続が切断された場合、自動的に再接続されます。

Action Request Systemコネクタ

サーバとの接続が切断された場合、自動的に再接続されます。設定ウィザード内でポート番号とRPCサーバ番号を指定できます。

データベースコネクタ

サーバとの接続が切断された場合、自動的に再接続されます。

バージョン2.70

エンジン

Connect-Itのグラフィカルインターフェイスは、日本語版、ドイツ語版、イタリア語版とポーランド語版で提供されています。マッピングボックスでのスクリプトのシンタックスの検証
マッピング部分のコピー/貼り付け
シナリオに関連したファイル（文字列ファイル、マップテーブル、Basic関数とユーザフォーマット）の自動読み込み
ソースとターゲットで同名の構造体とコレクションの要素を自動的にマッピングできます。
デフォルトのスケジューラ（「同期」）が追加されています。

シナリオの実行中に一時停止できます。
ソースコネクタとターゲットコネクタのデータをマッピングボックスから表示できます。
起動時に [ご存知でしたか?] が表示されます。
オフラインモードでは、外部アプリケーションへ接続せずにシナリオエディタを編集できます。
テストモードでは、ターゲットコネクタにデータを送信せずにシナリオをテストできます。コネクタがトランザクションをサポートする場合は、データの挿入が実行された後トランザクションがロールバックされます。
ユーザは、ソースコネクタで定義された各ドキュメントタイプ用に生成されるドキュメントの数を、オプションで一定数に制限できます。

新規コネクタ

Action Request System (R)
Tivoli Inventory 4.0インベントリコネクタ
Unicenter AMOインベントリコネクタ
WinPark Actimaインベントリコネクタ
MQSeriesコネクタ
インベントリゲートウェイ3.xコネクタは以下をサポートしません。

D2M Netbird
LAN Auditor
Novell Manage Wise
Novell ZENWorks
Tally NetCensus
Tivoli Inventory
Veritas Winland

Basic関数

シナリオのコネクタ用のクエリ
PifNewQueryFromXML

PifNewQueryFromFmtName
PifQueryNext
PifQueryClose
PifQueryGetStringVal
PifQueryGetLongVal
PifQueryGetIntVal
PifQueryGetDoubleVal
PifQueryGetDateVal

暗号化

PifCryptPassword
PifCryptReversPassword

Asset Managementコネクタ

ドキュメントのグループごとにトランザクションをサポートします。

データベースコネクタ

ドキュメントのグループごとにトランザクションをサポートします。

SYBASEのネイティブサポート
コレクションの整合性チェック

全インベントリコネクタ

SYBASEのネイティブサポート

LDAPコネクタ

自動再接続機能

ページ編集機能 (1.2.840.113556.1.4.319) のサポート
スケジュールモードでは、ディレクトリ項目の変更日に基づいてポインタを管理できます。

Eメールコネクタ (受信)

読み取られるメッセージの取得オプション

メール処理後に開封済みのフラグをつけるオプション

XMLコネクタ

XML DOMパーサの代わりにXML SAXパーサが使用されます。

InfraTools Network Discoveryコネクタ

XML DOMパーサの代わりにXML SAXパーサが使用されます。

ピボットフォーマット

ピボットフォーマットのサポートが拡張されています。

バージョン2.60

エンジン

ピボットドキュメントタイプ：ピボットドキュメントタイプは標準のデータ構造（ソフトウェア、資産、従業員など）を定義します。ソースコネクタとターゲットコネクタにピボットドキュメントタイプに関連付けられ、既製のマッピングが存在する場合は、マッピングボックスを新規に設定せずに、これら2つのコネクタ間のシナリオを作成し、データを交換することが可能です。

非グラフィカルモードでのUnix (SolarisとLinux) サポート
サービス管理用コンソール：サービスコンソールは、シナリオエディタのグラフィカルインターフェイスとは別の実行可能ファイルの形で、Connect-Itサービスを管理します。サービスコンソールは主に、サービスの作成と削除、またサービス実行のトラッキングを行います。コンソールはWindows環境下でのみ使用可能です。

コネクタの使用可能なドキュメントタイプのキャッシュ：キャッシュは、Asset Management、InfraTools Management、ServiceCenter、Network Discovery、データベース、LDAPコネクタと全てのインベントリコネクタに追加されました。キャッシュは、コネクタの使用可能なドキュメントタイプを格納しま

す。コネクタを最初に開く時にキャッシュが作成されると、その後コネクタを開く度にそのキャッシュが直接使用されます。

文字列の解析：数値、日付、または通貨のフォーマット用の文字列を解析するために、一般的なフォーマットを定義することができます。これらのフォーマットは、マッピングスクリプトで文字列を数値（または日付）に変換したり、または数値や日付を文字列に変換したりするために使用されます。この機能に関する詳細はConnect-It『ユーザガイド』と、『プログラム用参考ガイド』（“Programmer’s Reference”）を参照してください。

グラフィカルインターフェイスの改善：コネクタまたはマッピングボックスをダブルクリックすると、ドキュメントタイプの選択用ウィンドウまたはマッピング用ウィンドウが表示されます。

Informixデータベースエンジンに外部結合を使用できるようになりました。

新規コネクタ

以下の新規コネクタが追加されました。

- Asset Insightインベントリコネクタ
- TS Censusインベントリコネクタ
- PDA Inventoryコネクタ
- FacilityCenterコネクタ
- TeleCenterコネクタ

Basic関数

以下のBasic関数が追加されました。

- PifUserFmtStrToVar
- PifUserFmtVarToStr
- PifGetElementCount
- PifGetElementChildName
- PifSetStringVal
- PifSetLongVal

PifSetDoubleVal
PifSetDateVal



注意: 関数に関する詳細は、Connect-Itの『プログラム用参考ガイド』 (“Programmer’s Reference”) を参照してください。

Eメールコネクタ

Eメールコネクタに送信されたメール用の受信確認フラグ

NTセキュリティコネクタ

NTセキュリティコネクタには、新規の使用可能なドキュメントタイプがあります。

テキストコネクタとXMLコネクタ

HTTPプロトコルに加え、更にHTTPSプロトコルがサポートされます。

Asset Managementコネクタ

読み取りモードで特殊（集計）フィールドが使用可能です。
Connect-It旧バージョンでは、整合性チェックには[更新または挿入]、[挿入のみ（見つからない場合はエラー）]、[更新のみ（見つからない場合はエラー）]、[削除（見つからない場合はエラー）] のオプションのみが使用可能でした。新バージョンでは、整合性チェックの方法とエラーメッセージを送信するかどうかのオプションを、別々に指定できます。

InfraTools Managementコネクタ

読み取りモードで特殊（集計）フィールドが使用可能です。

データベースコネクタ

Connect-It旧バージョンでは、整合性チェックには[更新または挿入]、[挿入のみ（見つからない場合はエラー）]、[更新

のみ（見つからない場合はエラー）］、［削除（見つからない場合はエラー）］のオプションのみが使用可能でした。新バージョンでは、整合性チェックの方法とエラーメッセージを送信するかどうかのオプションを、別々に指定できます。

バージョン2.51

ServiceCenterコネクタ

ServiceCenterバージョン4.0をサポートします。

インストールとライセンス

全てのコネクタはConnect-Itのインストール用CDに入っています。ペレグリンシステムズのカスタマーサポートが発行するライセンスにより、登録されているコネクタが使用可能になります。

エンジン

ドキュメントの取り込み用に設定されているコネクタには、「Process Report」という使用可能なドキュメントタイプがあります。これには、受信されたドキュメントの処理に関する情報（エラー、警告または成功）が含まれています。

バージョン2.50

Asset Managementコネクタ

Asset Managementコネクタでは以下の点が改善されました。

サーバとの接続が切断された場合、Asset Managementコネクタには自動再接続機能があります。

レコードの更新時には、フィールドの以前の値に新規の値を追加することができます。旧バージョンでは値の置換のみが可能でした。

コレクションの整合性チェックの場合、見つからない要素にオプションでフラグをつけることができます。旧バージョンでは、見つからない要素を削除することしかできませんでした。

読み取りと書き込みモードで、リンク型の任意管理項目を処理できます。

Asset ManagementのAPI DLLは提供されません。外部アプリケーションのDLLが直接使用されます。

エンジン

Connect-Itエンジンでは以下の点が改善されました。

処理されたドキュメントと保存されたドキュメントを読み込むことができます。再び使用することも可能です。

オプションの集中管理

データのプレビュー

マッピングを使用可能（アクティブ）または使用不可能にできます。

コネクタの設定ウィザードに高度な設定ウィザードモードが追加されました。

シナリオ作成用のウィザード

2つのコネクタを直接つなげると、自動的にマッピングボックスが作成されます。

右クリックによるショートカットメニューと、ダブルクリックによるアクションが追加されました。

新規の既製Basic関数が追加されました。

InfraTools Network Discoveryコネクタ

InfraTools Network Discoveryコネクタでは以下の点が改善されました。

コネクタはInfraTools Network Discoveryバージョン4.0をサポートしています。

データベースコネクタ（旧バージョンのODBCコネクタ）

データベースコネクタでは以下の点が改善されました。

コネクタは読み取りモードに加えて、整合性チェック（ODBCデータソース内への書き込み）をサポートします。

整合性チェックで大文字小文字を区別するか、または区別しないかを選択するオプションがあります。

追加コネクタは、Oracle ODBCドライバを使用せずに、Oracle データベースのネイティブサポートを統合します。

テーブル間の結合を定義することが可能になり、またドキュメントレベルで整合性チェックのオプションを選択できるようになっています（リンクが拒否されたらドキュメントを拒否する、など）。

新規の標準コネクタ

以下の新規コネクタが追加されました。

InfraTools Managementコネクタが追加されました。このコネクタにより、InfraTools Managementデータベースの読み取りと書き込みが可能になります。

NTセキュリティコネクタが追加されました。このコネクタにより、NTドメイン上に登録されているユーザ、コンピュータとユーザグループの情報を取得できます（管理者権限が必要です）。

コマンドラインコネクタが追加されました。このコネクタにより、ターゲットコネクタでコマンドを実行し、ソースコネクタでコマンド実行の戻り値を取得できるようになります。

テキストコネクタ：このコネクタにより、ファイル内のデータを読み取り、ファイルにデータを書き込むことができます。ファイルのフォーマットは区切り文字で区切られた値のリストです。ローカルまたは共有ディレクトリ内で、ファイルの読み取り／書き込みが可能です。

以下のオプションコネクタが追加されました。

Lotus Notesコネクタ：このコネクタにより、Lotus Notesデータベース内での読み取りと書き込みが可能になります。

Eメールコネクタ：このコネクタにより、POP3、VIMまたはMAPIプロトコルをサポートするメールサーバ上で、メールを送信または受信できます。

XMLコネクタ：このコネクタにより、XMLドキュメントの読み取りまたは書き込みを実行できます。ローカルまたは共有ディレクトリ内で、ファイルの読み取り／書き込みが可能です。

Intel LANDeskコネクタ

Tivoli Inventory Managementコネクタ

Action Request Systemコネクタに関する補足情報

Action Request Systemコネクタの使用中に発生する問題を解決するための情報は、以下の通りです。

ダイナミックライブラリ

Action Request Systemコネクタは複数のダイナミックライブラリを必要とします。ダイナミックライブラリがシステムのパス内に見つからないと、エラーが発生します。この問題を解決するには、下記の「.dll」ファイルを、Connect-Itのインストール先フォルダの「bin32」フォルダにコピーする必要があります。これらのファイルは原則として、Action Request Systemのインストール先フォルダのサブフォルダ内にあります。

```
arapi45.dll  
arapi45.dll  
arapi45.dll  
arapi45.dll
```

日時の変換

Action Request Systemシナリオをスケジュールモードで実行する場合、変換の問題のためにWHERE句が拒否されることがあります。一般的にこの問題は、Action Request Systemサーバがシナリオを実行するマシンと同じ日時設定を使用しない場合に起こります。この問題を回避するには、日時用のユーザフォーマットを定義する必要があります。

- 1 以下の定義でARSScheduleTimeStampFormatという名のユーザフォーマットを作成します。

```
yyyy' 'mm' 'dd' 'hh' :'nn' : 'ss
```

- 2 「..\¥config¥ars」フォルダ内の「condsc.dsc」ファイルを編集します。POINTER_USER_FMT=ARSScheduleTimeStampFormatという項目を追加します。

```
{ CONNECTORDESC  
  INTERNALNAME=ARS  
  PARENTINTERNALNAME=Peregrine  
  . . . .  
  DB_DESC_FILE=arsdb.cfg  
  POINTER_USER_FMT=ARSScheduleTimeStampFormat  
}
```

- 3 このユーザフォーマットを含むファイルを、Action Request Systemコネクタを使用する全シナリオに追加します。

3 | 改善された問題点の一覧

章

Connect-It2.7.1で修正された欠陥点は、以下の表にまとめられています。

表には2つの見出しがあります。

欠陥番号：この番号を使って、修正された欠陥（または追加された機能）を簡単に見つけることができます。

詳細：欠陥または追加機能に関する簡単な説明

バージョン2.7.1

欠陥番号	説明
AM102484018	バージョン2.60の「indsc.scn」シナリオは、Connect-Itで再読み込みされた後破損する。
AM102314245	InfraTools Network DiscoveryコネクタのFULL_DEVICEドキュメントタイプのスケジュールのポインタは更新されない。

欠陥番号	説明
AM1017192929	スケジュールのポインタは、Asset Managementサーバとの時間差を適切に管理しない。
AM1031174740	オプション [第1レベルの各コレクションに使用可能なドキュメントタイプを発行する] が選択されていると、Connect-Itは、XMLファイルの読み取り時に一般保護エラーを発することがある。
AM116232231	Connect-It2. 60またはそれ以下のバージョンで作成されたInfraTools Desktop Discoveryシナリオを、Connect-It上で実行すると、「マップテーブル 'IddNullValue' は存在しません。」というエラーメッセージが表示される。
AM102474957	Lotus Notesコネクタ用のデフォルトのスケジュールポインタがない。
AM115172938	Oracle7. 3. 4. サーバ上ではOracleネイティブ接続を実行できない。
AM116181031	データベースコネクタが書き込み時に識別キーとして使用するフィールドが更新される。
AM11215436	Action Request Systemコネクタの設定ウィザード内では、ポート番号を指定できない。
AM1030144327	Action Request Systemコネクタのスケジュールのポインタが使用する日付フォーマットは無効である。
AM117152948	XMLファイルを元のフォルダに保存するようにXMLコネクタを設定する場合、スケジュールのポインタはない。

バージョン2.70

欠陥番号	説明
AM67105551	LDAPコネクタの接続が切断しても、自動的に再接続しない。
AM51411458	マップテーブルで漢字が使用されていると、マップテーブルは正常に読み込まれない。

欠陥番号	説明
AM82182950	データベースへの挿入時に文字列が切り詰められても、データベースコネクタは警告メッセージを生成しない。
AM831101527	ServiceCenterコネクタでキャッシュを使用すると、一般的な保護エラーが発生する。
AM108191655	SQLクエリがOracleで「Length()」または「DataType()」関数を呼び出すと、SQLクエリが無効になる。
AM105121752	シナリオの実行中にログの設定を変更すると、一般的保護エラーが発生する。
AM925131344	null値の日付は、データプレビュー用ウィンドウとドキュメントログでは正常に表示されない。
AM919161534	Asset Managementコネクタに挿入される日付型のフィールド値が1901-2038の期間外の場合、一般的な保護エラーが発生する。
AM10223191	指定されたDTDが無効でもXMLコネクタが正常に開く。
AM82215247	テキストコネクタを用いてFTPサーバ上で読み取りを実行すると、“There is already an FTP request in progress on this session” というエラーが発生する。
AM71617930	InfraTools Network DiscoveryコネクタがUNIXでデータを生成すると、“Error reading on socket 5 errno=146” というエラーメッセージが多数発生する。
AM101102523	XML属性がターゲットにマップされると、値は常にnullになる。
AM329204157	InfraTools Desktop Discoveryコネクタのマッピングで使用されている要素が、コネクタの設定内で指定されていないと、警告メッセージが表示される。
AM925143516	文字列タイプの要素が整数にマップされると、エラーメッセージなしに「0」の値が割り当てられる。
AM91393942	スケジュールのポインタ管理は、Asset ManagementサーバとConnect-It間の時間差を考慮に入れない。
AM829114810	Asset Managementコネクタ用にコレクションの整合性チェックを実行すると、

欠陥番号	説明
AM611181556	「PifIgnoreNodeMapping」関数がコレクション要素に適用されない。
AM32785831	Asset Managementコネクタでは、「姓名」(fullname)での整合性チェックを適切に実行できない。
AM313175022	XMLコネクタとテキストコネクタの「ファイルに上書きする」というモードは機能しない。
AM92417436	オプションではヘルプ用の文字列がない。
AM6715937	キュー内のドキュメントの一部は、MQSeriesコネクタに処理されない。
AM7311820	Asset Managementコネクタに取り込まれるドキュメント内で識別キーを有効にすると、一般的保護エラーが発生する。
AM918164236	ユーザがLDAP Active Directoryスキーマに追加した属性がConnect-Itで表示されない。
AM919122544	XMLコネクタが、書き込みモードで属性コレクションを適切に管理しない。
AM22321017	XMLコネクタとテキストコネクタが読み取るファイルの作成日と変更日が提供されない。
AM530154644	XMLコネクタ、テキストコネクタ、およびMQSeriesコネクタは、空のファイルが読み取りモードで処理される場合に、メッセージを表示しない。
AM37143458	[1つのファイルにドキュメントを書き込む] オプションが選択されていると、XMLコネクタにより書き込みモードで生成されたDTDが無効である。
AM515103930	ドキュメント内で値が欠けていると、データベース内にNULL値を挿入できない。
AM315154038	Asset Managementコネクタでは、NULLレコードでの整合性チェックを実行できない。
AM94152659	Basicスクリプトで\$ParentDoc\$を使用できない。
AM9318211	UNIXでconfig/ODBCディレクトリがインストールされない。

欠陥番号	説明
AM71911116	一定の無効なFSFファイルがサービスモードでエラーウィンドウを表示する。
AM8111926	データベースコネクタでネイティブOracleの接続が指定されると、文字「\$」を含むフィールド名が適切に処理されない。
AM7181214	LANDeskインベントリコネクタの性能に欠陥がある。
AM813122019	LDAPクラスで定義された属性がサブクラスのみでしか表示されない。
AM817102037	データベースコネクタが、Oracleで接頭文字「owner」をサポートしない。
AM1227163129	データのプレビュー用ウィンドウが、生成されたデータに関連付けられたメッセージを表示しない。
AM88215338	Asset Managementコネクタのリンク型の任意管理項目が、書き込みモードで作成されない。
AM74113747	データベースコネクタをNovell Directory Serviceに接続すると、Connect-Itで一般的な保護エラーが発生する。
AM719163418	マッピングボックスの [キャンセル] ボタンを使うと、シナリオのステータスが「変更済」に変わり、ドキュメントログの内容が削除される。
AM718152752	テキストコネクタのドキュメントを再び読み込むと、エラーメッセージが発生する。
AM710121831	Excelファイルに対してODBC接続を実行するとエラーが発生する。
AM7215581	プロパティ「Search DN」とプロパティ「Search Scope」の値がデフォルト値でない場合、LDAPコネクタを含むシナリオを再び読み込めない。
AM42692611	LDAPサーバのデフォルトのフィールド (modifyTimestamp、createTimestamp、など) が表示されないことがある。
AM41720922	UNIXプラットフォームで作成されたFSFファイルが拒否される (エラーメッセージが発生する)。
AM31692510	InfraTools Desktop Discoveryコネクタのバージョン要素の値が、FSFフォーマットの要素の値に対応する。

欠陥番号	説明
AM619135123	LDAPコネクタがLDAP Notesのサーバに接続すると、エラーが発生する。
AM9518947	VIMプロトコルでは、メッセージを読んだ後でもそのメッセージがサーバから削除されない。
AM723114635	LDAPコネクタでページ編集機能がサポートされない。
AM31181853	Basic関数「PifCryptPassword」と「PifRevCryptPassword」が使用不可能である。

履歴 - バージョン2.60

欠陥番号	説明
AM54183167とAM51795010	マッピング中にフィールドから0.001秒が減算される。
AM515112948	処理レポートを使用するシナリオの起動時にエラーメッセージが発生する。
AM491655	タイムスタンプ（時刻表示）に基づいたスケジュールが、MSSQL ServerとSybase SQL Serverでは機能しない。
AM32194718	テキストコネクタのスケジュールモードでは、ポインタ値が更新されない。
AM42618335	MAPIのメールサーバからメールが削除されない。
AM21753457	Informixでの外部結合がない。
AM31416199	Oracleに存在しないテーブルに関連したインデックスがあると、自動記述に失敗する。
AM43171557	文字列が最大サイズに達すると、ネイティブOracleでは文字列の最後の文字が削除される。
AM424115653	LDAPコネクタではメモリ漏れが起こる。
AM423144216	ServiceCenterのバージョン番号が非シリアル化されない。
AM515104952	「日付+時刻」型のフィールドをMSSQL ServerとOracleで識別キーとして使用すると、エラーメッセージが発生する（データベースコネクタ）。

欠陥番号	説明
AM2910109	プレビューモードでは、全てのレコードが取得されても、「+」アイコン（新規ドキュメントの表示用に使用される）が灰色にならない。
AM228145120	[停止] ボタンを押してもテキストコネクタを停止できない。
AM19103416	Asset Managementコネクタ用の「category.str」ファイル内の問題
AM1121591	InfraTools Desktop Discoveryコネクタではデータのプレビューを実行できない。
AM1218171825	スケジューラ、スケジュール、マップテーブルとグローバル関数は [シナリオ] メニュー内にあるべきである。
AM32820155	認証証明書で有効にされていないコネクタが、デフォルトで表示される。無効なコネクタ名は表示されるべきでない。
AM4916518	データベースコネクタで、大文字小文字の区別の検出機能に欠陥がある。
AM1121278	データプレビューでカウンタが必要になる。
AM515103930	Connect-Itドキュメント内で値が欠けていると、データベース内にNULL値をインポートできない。

バージョン2.51

欠陥番号	説明
AM112175548	データベース記述ファイルがデータベースコネクタに関連する場合に、一般的な保護エラーが発生する。また、ゲートウェイがデフォルトのパスと一致しない。
AM111175830	コネクタの説明内に翻訳されていない文字列がある。
AM112114915	ドイツ語のAsset Managementカテゴリ定義ファイル内のエラー
AM115173157	サポートされていないデータベースタイプを処理するデータベースコネクタを含むシナリオを、開くことができない。SybaseとMSSQL Serverエンジン用に「nchar」と

欠陥番号	説明
AM117155843	「nvarchar」タイプのサポートが追加されている。
AM11816101	「smslam.scn」シナリオがスケジュールモードで起動すると、エラーメッセージが発生する。
AM215101641	ネイティブOracleサポートを含むデータベースコネクタが数回開かれると、「ネイティブOracle」エントリが複製される。
AM37132021	MSSQL Serverエンジン用の「uniqueidentifier」データベースタイプのサポート
AM322212653	マッピングボックスまたは遠隔コネクタ内でエラーが発生しても、「.fsf」ファイルが処理成功用のフォルダに移される。
AM227191154	複数のInfraTools Network Discoveryコネクタが同一のシナリオ内で使用されていて、コネクタが「FULL_DEVICE」ドキュメントタイプのみを処理する場合、スキャンが完全に終了しても、1番目のコネクタのスケジュールポイントしか自動的に0に戻らない。他のコネクタでは次の起動時に「device」が全く取得されない。
AM39154441	テキストコネクタ用の書式設定ファイル作成用ウィザードと、テキストコネクタとXMLコネクタ用のURL選択部分がフランス語になっている。
AM39154441	Oracleネイティブでの「char」データベースタイプのサポート

バージョン2.50

欠陥番号	説明
AM929115852	コネクタがスケジュールなしで起動すると、InfraTools Network Discoveryドキュメントに関連するスケジューラのポイントが上書きされる。
AM929115632	[EventID] フィールドを含むInfraTools Network Discoveryコネクタにフィルタをかけられない。

欠陥番号	説明
AM811183149	InfraTools Desktop Discoveryコネクタの「Hardware.FSF.FSFDate」要素は「日付+時刻」型の代わりに「日付」型のデータになり、フォーマットが短い形式の日付の代わりに長い形式の日付になる。
AM101695026	FSFファイルがInfraTools Desktop Discoveryコネクタにより拒否され、次の様なエラーメッセージを表示する：「タイプの不一致が要素 'XXX' (パス 'YYY' 内) にあります。学習モードではパスをドキュメントタイプに追加することができません。」
AM1020111942	InfraTools Desktop Discoveryコネクタの「File.Modified」要素が国際標準形式の日付の代わりに、ローカル形式の日付として処理される。
AM103183150	ServiceCenterで出力 ("output") イベントが定義されていないと、ServiceCenterコネクタを起動できない。
AM92811925	SMSコネクタがインストールされる時、SMS 1. XコネクタとSMS 2. Xコネクタ両方がインストールされているにも関わらず、「SMS 2. Xコネクタがインストールされた」というメッセージが表示される。
AM928111442	SMSコネクタに関連するシナリオが、Connect-Itの基本インストール中にインストールされる。
AM101020133	LDAPコネクタの接続ごとに「SEARCH DN」リストが空にならない。
AM1011105959	イベントがServiceCenter内に挿入される度に、「SCEventStrNewは、イベントタイプ 'siswu' 用のINPUTマップを見つけられません」の様なエラーメッセージが、DLL「scc132.dll」に関連付けられたServiceCenterクライアントのログファイル内に書き込まれる。
AM1013104324	新規に作成されるサービスの名前が、既存のサービスの名前に一致する場合、警告メッセージなしで既存のサービスを削除し上書きしてしまう。エラー修正済み。
AM111092730	自動インストール (autorun.inf) は、追加コネクタでは機能しない。

欠陥番号	説明
AM1110103529	日本語のOS上で生成されるFSFの処理中に「無効な行 '...' が287行目にあります」の様なエラーメッセージが発生する（日本語版Connect-It）。
AM1110153552	複数のコレクション (FULL_DEVICE. Ports. Port. Attributes. Attribute. AttributeDescription) 内の1コレクションに含まれる要素が、InfraTools Network Discoveryコネクタに取得される際、エラーメッセージが発生する。
AM1129151143	テーブルの所有者が、データベースコネクタの基本設定内で指定されたログインと同一でない場合、データベースコネクタはエラーを発生する。テーブルの自己記述は適切に実行されるが、データは読み取られない。
AM12582829	Windowsセッションが終了するとNTサービスが中断される。
AM121492916	フィールド名がテーブル名と同一の場合、データベースコネクタが読み取りエラーを発生する。
AM1317120	UCase関数がu、o、aの文字を大文字に変換しない。
AM1314286	デフォルトのシナリオ「iddac.scn」では、[amSoftInstall] テーブルに関連して「リンク '...' 用の値が見つかりません」の様なエラーメッセージが発生する。コレクション「amSoftInstall」の代わりに、構造体「software」上にフィルタが置かれていた。
AM1210173046	[キャッシュファイルを使用する] オプションが選択されている場合、InfraTools Network Discoveryコネクタを開くと、「/nm/welcome/」ページを読み込めません」というエラーメッセージが発生する。
AM1128135844	「iddac.scn」シナリオのAsset Informationマッピングが、要素“Hardware.PhysHD”の代わりに要素“Hardware.Phys_HD”を参照している。
AM1219102622	デフォルトのSMSシナリオでは、各資産ごとにソフトウェアが1つしか作成されない。

欠陥番号	説明
AM15113417	FSFからInfraTools Desktop Discoveryコネクタにより抽出されたデータ内で、ソフトウェアのディレクトリ (Software.ProductDirectory要素) が間違っていることがある。
AM928112713	新規シナリオが開かれる際、その前のシナリオが開かれていないSMSコネクタを含んでいると、一般的な保護エラーが発生する。

バージョン2.10

欠陥番号	説明
AM831144738	Asset Management - ServiceCenterシナリオは複製製品を処理しない。
AM831183832	ServiceCenterの出力イベントのスケジュールが機能しない。
AM831144913	挿入では、ServiceCenterのエラーメッセージのステータスが「エラー」でないと、メッセージは表示されない。
AM831152652	Asset Management<->ServiceCenterシナリオにはデフォルトのスケジューラがない。
AM825123820	InfraTools Desktop Discoveryコネクタは、マップされたドライバを認識しない。
AM92615919	従属コレクションはマッピングに適切に処理されない。
AM811183149	IDDコネクタのFSF日付のフィールドが、日付としてでなく文字列として処理される。
AM84172847	Asset Management<->ServiceCenterシナリオの、「device」マッピングでは [カテゴリ] フィールドを使用できない。
AM91511153	Asset Management<->ServiceCenterシナリオは、Request Managementを不正に処理する。

4 | お問い合わせ先

章

Connect-Itの本バージョンに関するご質問は、ペレグリンシステムズのカスタマーサービス用Webサイト

(<http://support.peregrine.com>) で承っております。

このWebサイトにアクセスするには、有効なログインとパスワードが必要になります。

または、下記の最寄り のカスタマーサポートまでお問い合わせください。

北米、南米、アジア／太平洋諸国

電話番号：+(1) (800) 960 9998 (米国内でのみ無料ダイヤル)

+(1) (858) 794 7402

ファックス：+(1) (858) 794 6028

Eメール：support@peregrine.com

本社：Peregrine Systems, Inc.

Attn: Customer Support

3611 Valley Centre Drive

San Diego, CA 92130

ヨーロッパ、アフリカ

電話番号：(0) (800) 834 770 (英国内でのみ無料ダイヤル)

+(44) (0) (02) 8334-5844

ファックス：+(44) (0) (02) 8334-5890

Eメール：uksupport@peregrine.com

